

子育て家庭の孤立を防ぐアウトリーチ事業

「SNSによる相談支援と地域の子どもの居場所づくりによる
多様なアウトリーチ事業」

特定非営利活動法人STORIA

団体紹介

STORIA会社概要

<特定非営利活動法人STORIA概要と実績>

■ 活動

2016年4月にSTORIA設立。同年の7月に地域と協働し、困難を抱えるご家庭の子ども「生きる力を育む居場所」を開設。2021年からは、仙台市・地域と協働で孤立家庭を防ぐためのアウトリーチ事業、ひとり親生活向上支援事業、要保護児童等見守り強化支援事業を委託を受け、保護者と子どもの支援事業を行っている。

- 2017年度 独立行政法人福祉医療機構から優良事業に選定
・152団体の中で優良事業7団体の一つとして評価いただく

■ 2021年の活動実績

<事業内容>

- ・仙台市孤立する家庭を防ぐアウトリーチ事業
- ・ひとり親生活向上支援事業
- ・要保護等見守り強化支援事業
- ・子どものサードプレイス事業（2拠点）

<実績>

- ・アウトリーチ 679世帯 / 子ども680名（延べ数）
- ・相談件数 4561件 / 連携機関と対応数 106件
- ・要保護児童の見守り102世帯

■ 代表経歴 佐々木綾子

- ・2013~2018年NPO法人アスイク理事
- ・2014年 ひとり親家庭等自立促進計画策定協議会委員
- ・2016年 NPO法人STORIAを発足
- ・2017年 仙台市経済局 ソーシャルイノベーションアクセラレーター一期生
- ・2018年 仙台市総合計画審議会委員
- ・2019年 仙台市住生活基本計画検討委員会委員
- ・2020年 協働まちづくり推進委員会委員



テレビ東京、独立行政法人福祉医療機構のフォーラム、グラミン日本様、楽天様、SIAパネラー等の講演多数。

STORIA

「子育て家庭の孤立を防ぐアウトリーチ型支援」

1, 地域には支援を必要としていながら**行政の相談窓口や支援制度**に「つながらない・つながりにくい」家庭がある。

2, 支援の手が行き届かない孤立した状態にある家庭は、支援情報の入手や支援を受ける意思表示がうまくできず、児童虐待のような深刻な状態になってはじめて課題が顕在化することがある。

そのような、**孤立する家庭を積極的に見つけ、早い段階で課題を解決するため、必要な情報と支援を届ける必要がある。**

課題の把握と調査

①課題：社会・当事者・支援者それぞれの課題が複合的に重なっている

支援をなかなか求められない理由 TOP 5

- ◆トヨタ財団2017年度 国内助成プログラム
「声なき声」に支援を届ける
—新たなアウトリーチ展開のための調査—

分類	中カテゴリー
環境・社会	スティグマや恥がある
支援者	情報発信が不足している
当事者	援助希求力が低い
当事者	対人不信感・支援に対する不信感が強い
環境・社会	時間や場所などのアクセスに困難がある

②課題：特に、経済的困窮やひとり親家庭が支援を求められない



- ・生活状況を知られたくないために支援を受けることに否定的である
- ・相談窓口や支援制度の情報を入手できない
- ・支援を受けたいという意思表示がうまくできない
- ・そもそも支援への関心がない
- ・身内や地域から孤立している
- ・時間的な余裕がないために相談窓口へ行くことができない

提案内容：事業設計と目的

<事業名>

「SNS による相談支援と地域の子どもの居場所づくりによる多様なアウトリーチ事業」

<目的>

対象家庭の心理的ハードルを下げ、継続的かつ包摂的な事業を行い、孤立する家庭を防ぐ。

- ①多様なアウトリーチのモデル事業
- ②情報発信と相談支援
- ③早期発見から見守り支える支援

◆仙台市子供未来局の計画

◇仙台市子供の貧困対策計画：基本目標

「現に生活困窮状態にある、または将来的に生活困窮に陥りやすい状況にある家庭の子どもを早期に発見し、地域で継続的に支援する仕組みを構築する」

◇仙台市ひとり親家庭等自立促進計画：施策

「総合的な相談支援と情報提供（公的機関にとどまらない支援のネットワークの構築・強化）」



提案内容：事業の全体像

<SNS による相談支援と地域の子どもの居場所づくりによる多様なアウトリーチ事業>

- ①STEP1： 早期発見、早期支援のためのメールや地域連携による多様なアプローチ
- ②STEP2： 地域や連携機関による支援体制の構築
- ③STEP3： 小学生からの「地域で見守り支える子どもの居場所」における子育て支援

<事業全体図>



提案内容：事業目標と効果

目標：対象家庭が当法人と繋がることを目標とする

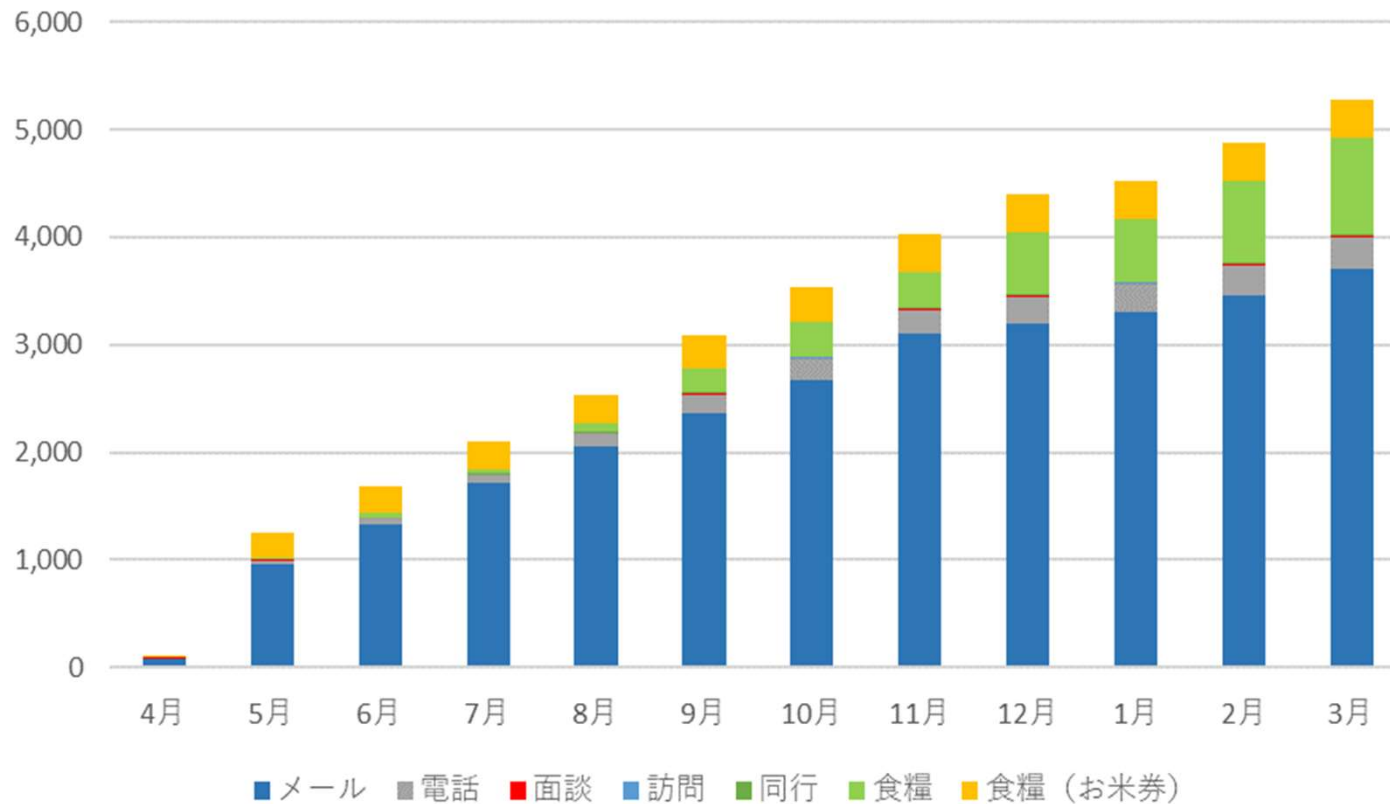
- (1) 仙台市からの情報提供によるアウトリーチ
- (2) 地域や連携先の情報提供によるアウトリーチ
- (3) メールによる相談窓口開設の周知

項目	目標	達成状況
①メールの相談窓口への登録数	310件	737件
②行政からの情報提供によるアウトリーチ件数	10件	405件
③地域や連携先からの情報提供によるアウトリーチ件数	10件	275件
④相談件数（メール・オンライン・対面含む）	72件	5,286件
⑤居場所に参加した子どもの自己肯定感を含む非認知能力生活力の向上	前後比較	向上した
⑥本事業で繋がった保護者の精神的負担と課題の軽減	前後比較	軽減した

相談件数の推移と相談内容

相談の多い順は生活困窮、次に子育て、医療、就労、家庭紛争、住宅となった。

相談件数内訳の推移（4月から該当月までの合計数）



居場所での子どもの非認知能力の向上

まなび



◆まなびサポートの様子◆

宿題は自分がやると決めた時間に行き、大人はこどもの言葉を信じて見守ります。また、「まなびがおもしろい！・楽しい！」と思える経験をたくさん用意し、スタッフやボランティアさんと一緒に楽しみながら、生きるための知識と知恵を身に付けていきます。

食育



◆食育の様子◆

地域ボランティアさんが栄養のある料理や季節に応じた料理で、子どもたちの心身の成長を支えています。また、スタッフやボランティアさんとの団らんの機会や子どもたち自らが楽しく調理をする機会も作っています。今年度は野菜づくりにチャレンジしました。

非認知能力：オンラインショップ

子どもたちの「やってみたいを叶える」非認知能力プログラムを実施した。コロナ禍でもやれることを子どもたち自身で考え、『オンラインショップ』の開設や『アート展をつくろう！』など、たくさんのプロジェクトにチャレンジした。非認知能力の効果測定では、全児童の非認知能力が、全ての項目において向上した。



◆オンラインショップの様子◆

子どもたちはデザイナーとしてロゴの作成・バックのデザイン・撮影までを自分達で行い、オンラインショップを開設し販売まで行った。お客様が購入くださった喜びがよい体験となり、自己効力感が高まった。

◆その他

- ①アート展
- ②お菓子の世界
- ③砂絵の展示会

その他、年間約12回以上のプログラムを実施。



非認知能力の向上の効果測定

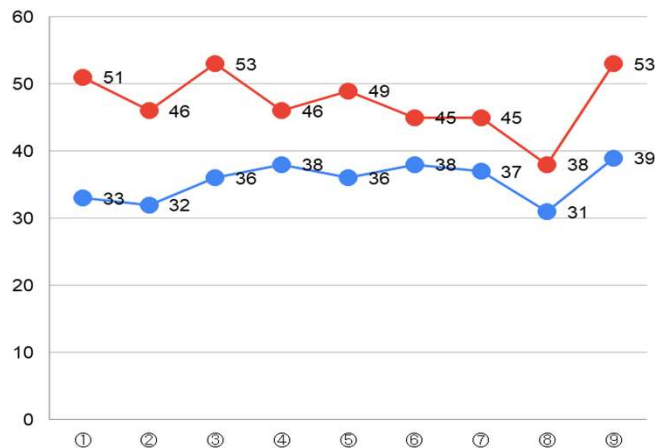
全児童の非認知能力が上がった

特に一番高かったのが「①思ったこと、いつもやっていることを立ち止まれる（自制心）」である。次に高かったのが「③相手が何故そのような気持ちであるか理解することができる（共感性）」であり、続いて「②状況に合わせて行動する（協調性）」「⑨相手を助けたり、相手のために何かしようとする。（社会適正性）」であった。

この結果に至った理由としては、この子どものサードプレイスは自分たちにとって大切な場所であると認識されているため、異年齢の価値観や考え方を吸収しながら、双方が過ごしやすいうようにと自制心や共感性、そして協調性が育まれたと考える。

また、体験プログラム（非認知能力向上プログラム）においても、自ら「やりたい」と企画したプログラムを良い結果にしたいという思いから意欲や積極性が生まれ、「⑨相手を助けたり、相手のために何かしようとする。（社会適正性）」が醸成されたと言える。これらの社会適正性がある人間関係の中で、失敗を受け止めてくれる場所、失敗を助けてくれる大人や仲間がいるからこそ、失敗を恐れずにいろんな経験や挑戦へ繋がられている。

効果比較



<効果測定内容>

■実施日：2021年4月～2021年9月10日

■対象者：子どものサードプレイスに参加している小学1年～6年生まで17名

■計測者：特定非営利活動法人STORIAスタッフ5名・アドバイザー1名

非認知能力項目	Before	After	差	呼称
①思ったこと、いつもやっていることを立ち止まれる	33	51	18	自制心
②状況に合わせて行動する	32	46	14	協調性
③相手が何故そのような気持ちであるか理解することができる	36	53	17	共感性
④思っていることとは違う行動をしてしまうことあると理解している	38	46	8	自己認識
⑤相手が何故そのような行動をしたか考えることができる	36	49	13	想像性
⑥体験したことを振り返ることができる	38	45	7	メタ認知ストラテジー
⑦人と対立しても乗り越えようとする	37	45	8	回復性
⑧言葉を使って気持ちを表現・理解できる	31	38	7	創造性
⑨相手を助けたり、相手のために何かしようとする	39	53	14	社会適応性

提案内容：連携体制

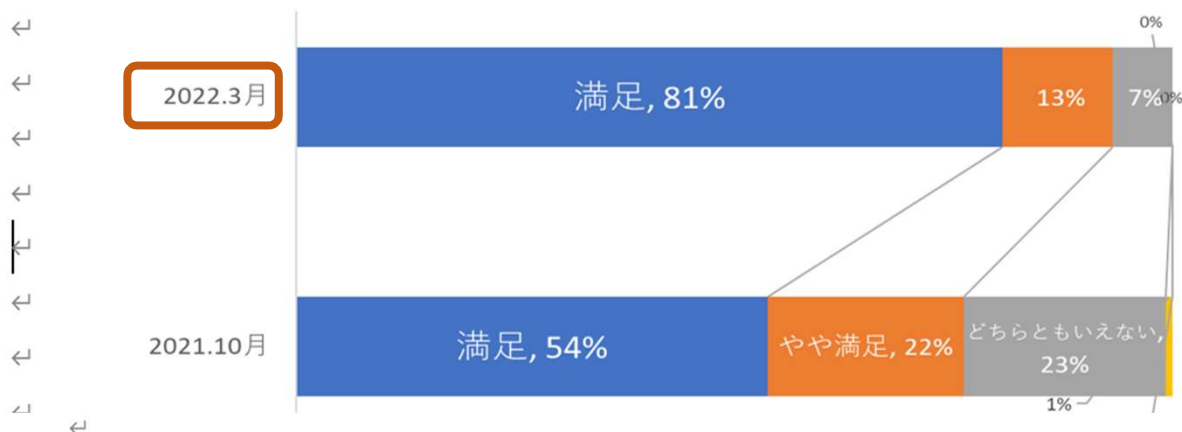
事業を遂行させるための連携について

- (1) 対象家庭へ案内や送付（QRコードを記載した案内チラシ）
- (2) 行政や行政機関へ同行支援をする際の担当課・担当者への繋ぎ及び連絡
- (3) 宮城野区内の町内会および民生委員との地域連携

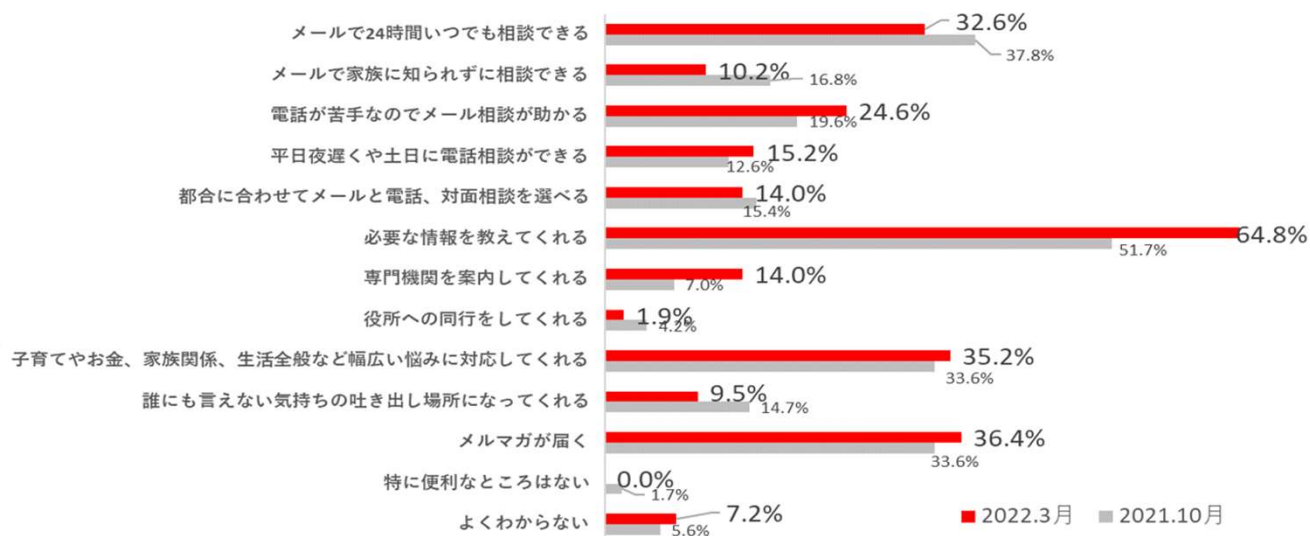
団体名	連携する理由	想定する連携内容
宮城野区家庭健康課	行政との連携による事業推進	情報交換、相談やつなぎ
宮城野区保護課	行政との連携による事業推進	情報交換、相談やつなぎ
児童相談所	行政との連携による事業推進	情報交換、相談やつなぎ
陸前高砂西区町内会	町内会との事業の協働	対象家庭の情報収集と地域による見守り支える支援
宮城県子ども食堂ネットワーク	他子ども食堂との連携強化	対象家庭への事業の案内や支援対象者の情報提供
フードバンク仙台	対象家庭の発見と支援強化	対象家庭への事業の案内や対象者の情報提供、食糧支援
宮城野区民生委員・児童委員	対象家庭の発見と継続的な支援	対象家庭への事業の案内や支援対象者の情報提供、連携支援
宮城野区社会福祉協議会	ボランティア・食糧支援	地区社協の連携や地域の互助活動のサポート
宮城野区内保育所・小学校・児童館	SC,SW 等との連携支援	対象家庭と子どもの情報共有
医療や各専門機関等	専門領域への繋ぎ	専門的知見のアドバイスとリファー、連携見守り

事業のニーズと成果

Q1. 子育て家庭の相談窓口「POLLUX」には、どのくらい満足していますか。当てはまるものをひとつお答えください。←



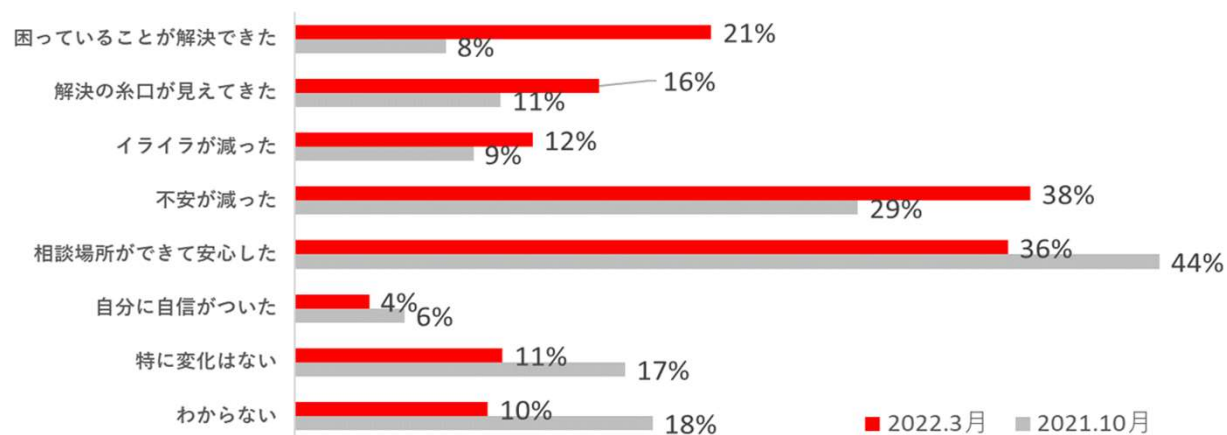
Q2. POLLUX はどのような点が便利ですか。当てはまるものをすべてお答えください。←
(複数回答) ←



事業のニーズと成果

←

Q3. POLLUX を利用して、何か変化はありましたか。当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）←



←

←

Q4. スタッフの対応にはどのくらい満足していますか。当てはまるものをひとつお答えください。←

←

←

←

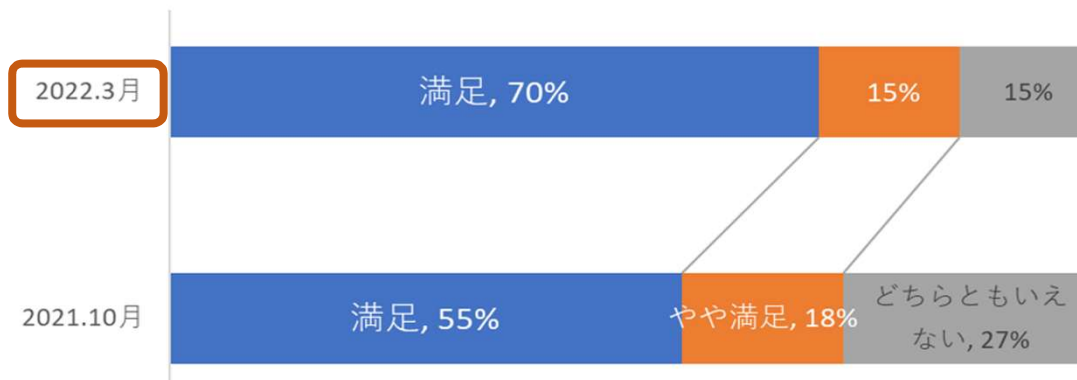
←

←

←

←

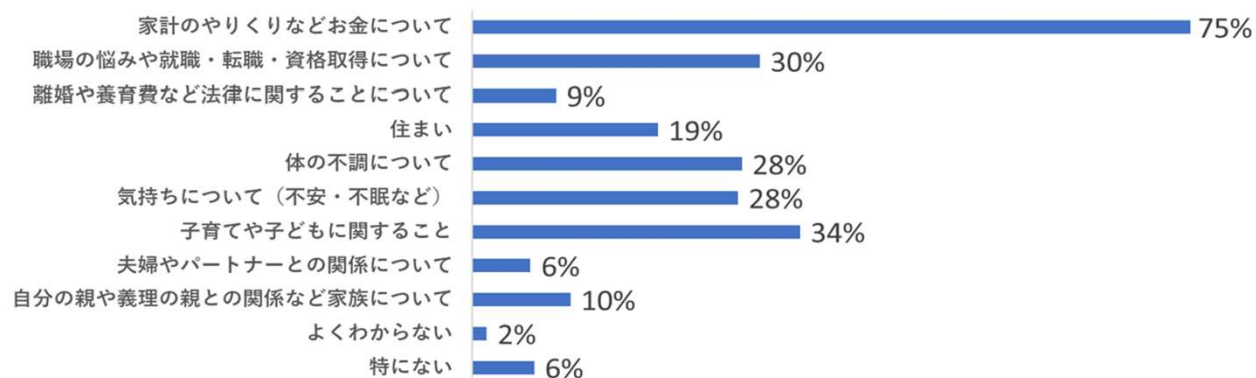
←



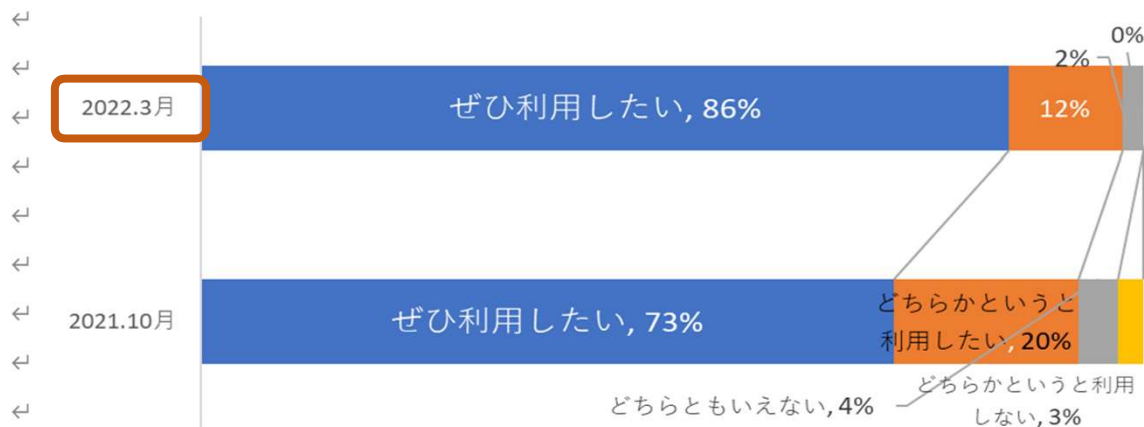
事業のニーズと成果

Q5. 今困っていること、不安なことはありますか。当てはまるものをすべてお答えください。（複数回答）※2022.3月のみの設問←

「家計のやりくりなどお金について」が75%と、圧倒的に高い。その次は「子育てや子供に関すること」が34%、「職場の悩みや就職・転職・資格取得について」の30%である。←



Q7. 今後も POLLUX を利用したいですか。当てはまるものをひとつお答えください。←



提案事業：令和4年度の展開

相談支援事業は、仙台市5区にて展開

仙台市ひとり親家庭等生活上支援事業

ひとり親家庭のための相談窓口と情報サイト

POLLUX

ポルククス

仙台市
地域の方向け

ポルククスは、ママやパパの困りごとをお聞きしてサポートするための相談窓口です。『子育て、教育、お金、仕事、離婚、支援制度』などの悩みを一緒に考えます。よかつたら私たちに聞かせてください。

悩みが整理できていなくても、どんな悩みでも安心してお話しください。

- ① **相談は何回でも無料です**
相談料はかかりません。
- ② **メール・電話・オンライン・対面相談を選べます**
メールは24時間受け付け、ご都合の良い方法で相談ができます。
- ③ **必要な情報をメールマガジンでお届けします**
食料支援や支援制度などの情報を定期的にお送りします。
POLLUXの情報サイト・メールマガジンのご登録はこちらから。

おこめ券を無料でサポートします

「おこめ券」を無料でお送りいたします。ご希望の方は裏面のメールまたは電話へご連絡をお願いします。
※お一人様一枚 (1kg)

詳しくは裏面へ！

相談無料

24時間受付

こういう悩みはありませんか？

子育て

- ・子育てがつらく、ひとりで悩んでいます。
- ・子どもの体や心の発達に気がなります。
- ・子どもが学校に行けず、この先が心配です。

お金・仕事

- ・手元の現金がもうわずかで、生活ができなくなりそうです。
- ・子育てしながら勤められる仕事を探しています。
- ・仕事探しや、就労活動のやり方がわかりません。

教育

- ・卒業式・入学式の準備ができずに困っています。
- ・子どもの給食費や学用品費が払えません。
- ・進学のための教育費が出できません。

サポートや支援制度

- ・私を受けられる支援制度やサポートはありませんか。
- ・離婚を考えています。この先どうしたらいいか悩んでいます。
- ・行政にひとりで行くのが不安です。一緒に行ってもらえますか。

相談の流れ

1

まずは気軽にご連絡ください

メール info@pollux.storia.or.jp

電話 (携帯電話)

080-3335-3828

080-7653-8008

月～水 10:00～17:00
木・金 10:00～21:00
土 13:00～18:00
※通話料がかかります。

2

メールでのお問い合わせ

POLLUXのスタッフが応答します。相談内容に関してメールでお答えします。

3

個別の相談

お悩みを一緒に解決できるよう継続的にサポートします。メールやお電話での相談やサポートが難しい場合は、対面や訪問もあります。

相談方法

メールでの相談は24時間受付しています。
*受け取ったメールのメッセージは翌営業日までお返事します。

電話・対面での相談

対面での相談をご希望の場合はメールまたは電話にてご予約ください。

月～水 10:00～17:00
木・金 10:00～21:00
土 13:00～18:00

おこめ券は、メールまたはお電話にてお申し込みください！

メール info@pollux.storia.or.jp 電話 080-3335-3828/080-7653-8008

電話受付時間：(月～水) 10:00～17:00、(木・金) 10:00～21:00、(土) 13:00～18:00

POLLUXについて

POLLUXは、ひとり親などの子育てをしている親御さんとその子どもを応援する認定NPO法人STORIA（ストーリア）が、仙台市ひとり親家庭等生活上支援事業の委託を受け運営しています。STORIAは親御さんの相談支援や子ども達の生きる力を育むためのサポートを2016年から行っています。

認定NPO法人 STORIA（ストーリア） 宮城県仙台市青葉区春日町 9-15-505

15

ご清聴ありがとうございました。